

連載 春秋の花5

大西巨人 古今東西にわたる深い教養をもとに、芸術家の言葉に認識の鋭利さを提示する、類まれな文芸アンソロジー。

その後の『エビと日本人』報告 持続可能なエビ養殖事業をめぐる

パブル期に刊行された『エビと日本人』(村井吉敬著)は、南の諸国に対する日本の企業・消費者の資源収奪的行動に警鐘を鳴らすものだった。現在のエビ養殖と消費の状況とは？



特集1 『エビと日本人』以降のエビをめぐる可能性としてのエコシリンプに期待する 村井吉敬 6

特集2 伝統的エビ養殖の持続的発展 地域社会に広げる環境保全運動の模索 津留歴史 19

特集3 ATJのエコシリンプ事業小史 エビは民衆交易商品たりうるか 近藤康男 30

特集4 エコシリンプの養殖技術改革プロジェクト 堀田正彦 38

〈統計図表〉 エビの生産・消費の指標から 26

自然力を利用した養殖 エコシリンプ養殖池のしくみ 28

短期連載 英国オックスファムとは何か？(後編) 二〇世紀の社会史から見たオックスファム像 市橋秀夫 42

国連公認のNGOとして大きな影響力を揮うオックスファムは、その長い活動履歴の中に、イギリス社会の矛盾とその解決に向けての努力を印象深く刻印している組織である。

「東南アジアの出稼ぎ最新事情」

小特集1 日比の「出稼ぎ」から見る近代 人の流れの加速化する転換点と反転期 高畑幸 59

小特集2 結婚ビザ取得支援事業の興隆 日比の国籍管理の狭間で見える常識と非常識 鈴木和夫 68

小特集3 移動の世紀の(再生産労働)(最終回) 3 エスニシティをまたぐ高齢者介護と介護の国際化 安里和晃 79

興行ビザで来日するフィリピーナの数が増えている。日本政府の入管政策の結果だが、彼女たちは新手を開発中だ。ビザ取得支援事業から見る日比の社会制度・意識の落差。

近い将来、日本はアメリカのように医療・介護現場で海外の労働力への依存を増す可能性がある。一方、労働力の送り出し諸国で進行している事態とは？ 連載の完結篇。

連載

ケアの社会学

第四章 ケアとはどんな労働か？

上野千鶴子

94

インタビュー

一人で撮るドキュメンタリー映画とは
『出草之歌』井上修監督インタビュー

118

特別記事

〈民衆の対抗暴力〉像の変遷
ボリビアの映画集団ウカマウの作品群を通して

太田昌国

127

新連載

『世界共和国へ』に関するノート(1)

柄谷行人

134

フリップ緊急報告

新人民軍によるバナナトラック襲撃事件

秋山真兄

92

コラム

「協同」の現場から
ペルー人教会と劇団セロ・ウアチパ

66

デザイン覚書

鈴木一誌

147

『E』5号に書いた／語った人たち

148

編集後記・次号予告

149

家事労働論争を巻き起こした著者が、労働としてのケアについて論じる。ケア労働の報酬はなぜこうも安いのか。労働の性格を分析し、その報酬の安さについて明らかにする。

台湾原住民の運動を追ったドキュメンタリー『出草之歌』を単独で撮影・制作した井上修監督。ドキュメンタリー映画とはいかにして作られ、またいかに見られるべきものなのか？

世界の周縁部における被抑圧民族・人民の武装解放運動の波が帝国主義諸国へ侵攻するという戦略の輝いていた時代が去り、抑圧の強まる一方で、新たな戦略はいまなお模索中である。

評議会制度は真に国家を揚棄しうるのか？「革命と反復」を中断して著者がいま述べておさるをえなかつたことは。話題の近著『世界共和国へ』で語られなかつたさらなる射程。

写真・図版提供、協力
NDU 日本ドキュメンタリスト・ユニオン、太田昌国、林巖雄
出雲公三、市橋秀夫、KSP、